

南丹市総合教育会議議事録

＜令和6年度第1回＞

令和7年1月15日

令和6年度第1回南丹市総合教育会議

- 1 日 時 令和7年1月15日（水）
開会：午後3時30分 閉会：午後5時15分
- 2 場 所 南丹市役所2号庁舎3階 301会議室
- 3 議 題
(1) 就学前教育・保育の現状と今後の方向性について
(2) 教育課題について
- 4 出席委員
西村市長
國府教育長、前田教育長職務代理者、城戸委員、一谷委員
(渕上委員欠席)
- 5 会議に出席した職員
＜教育委員会事務局＞
野々口教育次長、谷口こども家庭センター長、山田教育参事、
山田学校教育課長、木上学校教育課参事、
大秦こども家庭課長、桐幼児教育・保育推進課長
(川勝社会教育課長、中川学校教育課参事欠席)
＜総合教育会議事務局＞
國府市長公室長、高屋企画財政課長、片山企画財政課課長補佐、
佐々江企画財政課主事
- 6 傍聴人 1名
- 7 会議の経過

＜1＞開会（進行：総合教育会議事務局）

ただ今から、令和6年度第1回南丹市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、西村市長からご挨拶をいただきます。

◇市長あいさつ

令和6年度第1回南丹市総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆さまには、ご多忙の中ご出席いただきましたことに心からお礼を申し上げます。平素から南丹市の教育行政の推進に対してそれぞれ皆さま方に格別のご指導とご協力を賜っていますことに、重ねて御礼申し上げます。

総合教育会議は、大津のいじめ事件を受けて、教育行政と一般行政を連携して課題の解決にあたっていく必要があるという教訓から設置されています。

そんな中で今日の議題は、「就学前教育・保育の現状と今後の方向性について」を設けています。農村部では人口が大きく減少しており、既に小学校の統廃合で11校が閉校となりました。就学前教育・保育については、比較的人口が集中している園部エリアでは、待機児童が課題です。これは入園希望者が低年齢化しており、働く父母が増えてきたことによってニーズが高まっていることが主な原因の一つです。施設の老朽化やその建て替えには多額の費用が掛かるため、国のお金を活用しながら、民間のこども園を立ち上げていただき、よい保育環境、教育環境を整備していこうという動きがあります。施設が老朽化している公立保育園は一定の整理をしていく必要があると思います。そういった現状にどう取り組んでいくのかについても本日の議題の中で考えていきたいと思っています。

一方、人口が減少しているエリアでは、いかに安定して継続した保育や就学前教育環境を維持していくか、一定の規模を保ちながらどのように施設を整備していくかについて、将来統合していくことを含めて検討していかなければならない地域があります。美山では1園1分園と統合されているところですが、今後の成り行きについても注視していかなければなりません。

低年齢化した入園希望者が多いということは、たくさんの保育士が必要です。こども3人に対し保育士が1人という割合だとたくさんの人数が必要ですが、本市の場合はなかなか応募がなく、応募があっても他所へ就職されてしまう現状があります。現職の方も高齢化しており、色々な事情で途中で退職される方がおられます。そういうことで人材確保が非常に厳しい状況で、待機児童を出さないという大きな目標の達成が難しくなっています。これから10年20年先の本市の保育の体制や活動の方向性について教育委員さんの意見を聞いて今後の道筋をつけていきたいと思っておりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

[総合教育会議事務局]

ありがとうございました。本日ご出席いただいております委員の皆さま、また、事務局として出席している職員の名簿については配布している次第の裏面に掲載をしています。

それでは、本日の議事に入ります。当会議の議長については、西村市長にお願いしま

す。よろしくお願いします。

< 2 > 議事

(1) 就学前教育・保育の現状と今後の方向性について

[西村市長]

お手元に本日のレジュメを配布しています。そちらに沿って進めてまいりたいと思います。教育委員会事務局から説明をお願いします。

(教育委員会事務局から説明)

[西村市長]

ただいま方向性について教育委員会の中の議論の積み上げに基づいた考え方を提示させていただきました。初めにご質問をいただき、皆さんからご意見、方向性の考え方について、意見をお聞きしたいです。

[前田教育委員]

資料3にある、赤字の数字について、受け入れられないかもしれないとのことですが、実情はどうなのでしょう。

[教育委員会事務局]

今年度、城南保育所の0歳児は6名しか受け入れできませんでした。この数字から考えると15名は難しいと考えています。年度末で退職したいという意向も聞いています。保育士は減る一方です。

[前田教育委員]

こども園化するということは、少なくなっているところで受け入れようということですか。

[教育委員会事務局]

例えば園部幼稚園と園部保育所については、保育士配置数からいうと3歳児が園部幼稚園で9名入園予定、園部保育所で14名が決まっています。保育所は職員1人で問題ないですが、幼稚園は現在1人ですがもう一人加配配置をしているところです。

[前田教育委員]

15人を受け入れられないならば、園部幼稚園がこども園化すれば溢れた子を受け入

られるのかという質問の趣旨です。

〔教育委員会事務局〕

こども園化によって職員を足し合わせていくことで、人数は合っていくと思っております。

〔西村市長〕

職場と掛け合っただけでなんとか育児休暇を取ってもらい0歳時の間は親が面倒をみたり、働き方も工夫していただきながらこどもの面倒を見られる環境作りによって凌いでいただいています。

〔教育委員会事務局〕

今年度の受け入れも保留という形で育児休業を延長いただいている家庭が19家庭ほどあります。待機児童は1人です。

〔西村市長〕

日吉では、もう少し受け入れられますが、園部在住の方が日吉の方でこどもを入れた場合は希望の申し入れがないとできません。余力があってもそこをカバーに入るような施設としては動くことができません。

〔教育委員会事務局〕

どうしても入りたいという家庭については、祖父母に協力してもらい、園部から日吉まで送迎されている家庭もあります。第1希望となると、狭き門になるという状況です。特に南丹のぞみ園、城南保育所は、0歳児がそのまま1歳児の学年に上がるので、1歳児の入れる枠はより狭くなります。新規でその定員数を受け入れることはできません。保護者からは1歳児で入りにくいため、0歳児で入りたいと入所面談でよく聞きます。

〔前田教育委員〕

現在城南保育所でお世話になっていますが、去年そのような話を聞きました。職場も人が必要なので、できれば預けてきていただきたいというのが雇用者の気持ちだと思います。預かる体制ができないと社会の生産性も低下していきます。

〔西村市長〕

保育士を確保できないということは、全体的に幼児教育課程を学ぶ若者が減っているということです。原因としては、仕事としての保育士の金銭的評価が低いことです。公

立で正職員であれば一定の水準を確保できますが、民間だと厳しいところがあります。逆に民間の方が多いところもあります。取り合い状態になっています。保育士の給与を改善すべきところですが、国からの支援が欲しいです。

〔教育委員会事務局〕

民間園に対しては、職によって加算を見てくれますが、公立には一切ありません。

〔西村市長〕

民間が上がれば公立は自助努力で上げなければなりません。厳しいところがあります。

〔前田教育委員〕

どこを選ぶかという基準について、8割の学生が初任給を見るといいます。大きい会社では30万円を超えています。ユニクロは33万円だそうです。

〔西村市長〕

公立より民間の方が柔軟な運営をしやすいです。こども園を新たに建てるとしても公立だと財政的支援がありませんが、民間だと3分の2まで国と府で出してもらえます。受け入れる施設が足りないという問題がありましたが、今は人材不足が問題です。基準を満たす人数を確保しないと受け入れられません。設置基準をより充実させ、1人が受け持つこどもの数がより少なくなるということは保育士が増えるということで、今の実態と合っていません。

〔國府教育長〕

こどもを受け入れてもらえたら復帰しますという小中学校の先生方もおられます。情報をもらいながら人事編成をしています。

〔西村市長〕

公立学校は2年なのでしょうか。

〔國府教育長〕

2年です。3年はありません。祖父母とかに見てもらえたら良いのですが。

〔城戸教育委員〕

新卒ではなくて、子育てが終わった方が、学び直しで資格を取られて保育士になられる方がおられます。そういった方を育てるのもありだと思います。

[教育委員会事務局]

3年間保育補助として働いてくだされば、学校に行かなくても資格を取れますが、お声がけをしても、「難しいことは出来ない」と言って資格を取ろうとする人はほとんどいません。中には先生に憧れて資格を取る方もおられます。

[西村市長]

知り合いで再度学んで保育士になるという方はどんな方なのでしょう。働いていない専業主婦の方でもう一度社会復帰したいという方が多いのでしょうか。

[城戸教育委員]

そういう方だと思います。専業主婦でパートで働いている方で、お子さんが就職された方です。自分の時間ができたので、何かやりたいという方です。

[西村市長]

保育の専門学校に行かれるのでしょうか。

[城戸教育委員]

通信教育だと思います。

[西村市長]

1年でとれるのですか。

[教育委員会事務局]

ユーキャンなどのような通信教育でとれます。

[西村市長]

多少の学び直しの費用の一部を助成できるようになれば良いと思います。

[教育委員会事務局]

フルタイムはしんどいので、保育士免許を持っていると給料がいい学童の指導員等に行くパターンがあります。

[前田教育委員]

大谷大学の保育科の学生に、卒業生がみんなが保育士になるかと聞くとそうではないということです。

〔國府教育長〕

給与面、環境面、研修の充実の三つが重要です。合格は出したが、辞退が多かったです。

〔西村市長〕

もっと条件のいいところに行くのでしょうか。

〔國府教育長〕

学校の先生でもそういう動きがあります。研修の質の向上が重要です。来年度以降、研修できる時間の確保もアプローチしてみようと思います。

幼小中の職員に研修を実施しても、保育士はなかなか参加しにくい状況で来られません。小学校中学校の教員は各地域で揃いますが、保育士は揃いません。

〔西村市長〕

お勤めの方も、年間3回位を予め4月当初にこの時期にすると決めておけば、職場にも言いやすいと思います。

〔城戸教育委員〕

自分のお子さんと一緒にいたいので、保育士の免許をとってそのまま同じところというパターンもあると聞きます。それまでは保育士の資格は持っていなかったが、こどもと離れるパターンではなく、働きながらこどもと一緒にいるために保育士免許を取られていました。

〔西村市長〕

一人来ていただくだけで状況が変わります。この会議が終わってからでも、その方の話を聞きたいです。

〔前田教育委員〕

必要人数に対して正規と再任用の人数が分かる資料はありますか。何人足りないかという資料です。

〔教育委員会事務局〕

そこまでの資料は出せていないが、実際に保育園を開けている時間は、11時間です。先生たちが働く時間は7時間45分、早朝保育と延長保育の時間に人が足りていません。9時頃から15時頃までは一定数の保育士の確保が来ていますがそれ以外の時間が確保できていません。それぞれ働き方が様々で、20時間までの人がいたり、週に2回だ

け来て下さる方がいたりします。それをパズルのようにはめていかなければなりません。結局、正職員が足りない時間帯に残業が必要となる実態があります。城南保育所でフルで働かれていた方が年度途中で退職されてシフトが組めず、フォローに当たる正職員の残業が必要となります。現在、正規が 53 人、育休を取られている方を含めて 56、57 人です。

〔前田教育委員〕

必要な人員は何人ですか。80 人とか 100 人とかですか。

〔教育委員会事務局〕

100 人までは必要ありませんが、どの園も 1 人～2 人くらいの会計年度任用職員が担任を持っています。一学年 6 クラスだと 10 人ほど足りません。園長や園長補佐の職員も担任を持ったり、代替え要員に入っている実態があります。

〔前田教育委員〕

実際に正規職員が何人必要なのかという数字をまた示してほしいです。1 人 2 人来てほしいというレベルではないと思います。

〔西村市長〕

紙で集めるのはなかなか難しいので、一本釣りで行くしかないです。

〔一谷教育委員〕

保育士になりたいけれども壁があるのかもしれません。成り手はいるが、何か壁があるということを把握しているのでしょうか。

〔教育委員会事務局〕

実際に会計年度任用職員に正規の職員にならないかと誘いますが、先生の働き方を見ていると給料が上がったとしてもやりたくないと言われてしまいます。正規職員に対する労働の環境という部分で難しいところです。

〔西村市長〕

保育士の確保について重点的に話していただいています。

体制的なところでは、認定こども園をもう一園、園部町栄町のエリアで準備をしています。その定員が 101 名の計画で、上手く保育士を配置できれば、園部保育所、城南保育所の統合・こども園化で現状が改善されと考えています。

胡麻保育所と日吉こども園の二つで園児が少なくなっています。来年 4 月で、日吉こ

ども園が 32 人、胡麻が 42 人です。学年でいうと非常にコンパクトな数になっています。そのあたり保育士の有効活用からいうと再編した方がいいのですが、地域の状況を見極めながらやっていく必要があると思います。八木は中央幼児学園と東幼児学園の二つです。施設が老朽化してきて、統合して民間の法人を手招きすればどうだろうということは、一定視野には入っていますが、具体的な方策である場所や用地の検討が必要です。いずれは動こうということで、一定の目標を設けていきたいと思います。八木の方も、園児数の動向を見極めないと、減り続けているところには来てもらえないので、その辺も睨みながら、見通しを立てていきます。そのあたりでご意見があればお伺いしたいです。美山は現状として変えられないです。遠距離通園は無理です。

〔城戸教育委員〕

市長のお話ですと、日吉は再編を視野に入れるかもしれないとのことですが、公立ですか。

〔西村市長〕

公立でないとこどもの数の規模を一定確保できないと安定的な経営が出来ないので難しいと思います。園部でも現状の維持ができるかはわかりませんが、安定しています。八木は新たにどれだけ駅の周辺に人が来てくれるかというところです。新たな家が増えています、こどもの数はどうかも見極めが必要です。

〔教育委員会事務局〕

民間の園を誘致するためには、定員 90 名必要で、日吉地域で両園合わせても 90 人いないので、民間の誘致は難しいです。美山も同様です。

〔西村市長〕

美山の場合は、地域が広いので、特に低年齢児が新たに入園したい場合は、ひと工夫していかないと大変です。知井のエリアは今年は 0 名。こどもをたくさん抱えてきてくれる方は有難いです。

〔城戸教育委員〕

八木から公立はなくなってしまうということですか。

〔西村市長〕

そうです。八木のエリアは公立となると、園部こども園になる。そこまで維持できるこどものボリュームがないので、距離的に園部と八木を一本にしたいです。

[前田教育委員]

民間であれば保育士は確保できるのですか。

[西村市長]

民間も一緒だと思います。のぞみ園も四苦八苦されています。行政からすると、民間の方が柔軟です。議会にかけて実施する必要もないし、国費が民間には手厚いという現状があります。そういう意味では財政的にも有利だと思います。

[國府教育長]

少子化がどんどん進んでおり、令和6年度の中学三年生が238名、去年の0歳児が137人です。どう維持していくかということも考えていかなければなりません。

[西村市長]

どちらかというと、公立で調整をします。民間は経営的に成り立たないといけないため、こどもの数も一定確保してくださると思います。保育所は、行政が関与してコントロールできますので、入園先は公の方で調整していますので、そういう意味では、公立を安全弁にします。八木と園部では、こども園を配置していきたいですし、日吉と美山は公立でないといけません。かなり教育委員会のことを話していますが、それだけ話しています。

考え方や将来の枠組みをつかんでいただいたと思います。毎年保育士が足りないと悩んでいるので、みなさんの知り合いにもよろしくお願いしたいです。大歓迎します。次に教育課題について、進めていきます。

(2) 教育の課題について

[國府教育長]

少子化の波が来ている中で、小中学校の複式学級も考えていかなければなりません。幸いにして美山町はこどもが減っても複式になることは今のところありません。美山小学校と美山中学校のあたりも検討していかなければなりません。日吉は大分減っています。特に殿田小学校がすごく減っています。逆に胡麻郷小学校は創立150周年記念式典もされて、そういう中であって、今後どうするかを考えていかなければなりません。日吉であれば、地理的に近い殿田小学校を先に小中一貫校にする構想を持っています。そういう構造的な課題が一つあります。

もう一つの問題は中身の問題で、現場でZoom等で、南丹市の小学校同士と一緒に授業をつないでみたり、海外と繋いだりとかで使ってもらっています。質を維持していくためにどうすればよいかというところは、「すらら」やICTをいかに利活用していくか、知恵を出しながら、ボトムアップも望みながらやっています。思っているよりも早い

スピードで、VUCA の時代と言われるように、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性ということで、いつか誰かがやってくれるという時代ではなくなりました。今あるような、就学前の課題もありますし、小中学校の義務教育の課題もあるので、今のプラス面を上手く活かしながら、検討していきたいと考えています。不登校も増えている現状もありますので、持続可能な形にできないかと思っています。財源の問題が大きく関わっています。

〔西村市長〕

将来的には美山も小中学校の一貫にして、6+3 という単純なプランではなく、独自性、個性がある学校というものを出来たらと思います。将来そういうことを考えていく必要があります。施設も大きいですし、一括に固めた方が効率もいいし、環境的にももっと良くなるだろうという方向性に照準を合わせていますが、打ち込む球がないので、そのあたりをこれからどうしていくか、ゆっくりはできないが、財源づくりをしていく必要があります。繰り返し、教育長と話をしていますが、画期的な方策が出てきていません。それでもやっていく必要があります。教育長からあったように、殿田小学校と殿田の中学校の隣接部分を先行して、小中一貫化して、胡麻郷小学校については、もう少し時間をかけて考える。美山は、方向性はかなり色濃くでているが、実弾がないということで、そのあたりの対応を考えていきたいです。

〔前田教育委員〕

仮に義務教育学校を作ったとき、一学年一クラスだと思いますが、教員の数は、校長先生と教頭先生が減るということによろしいですか。

〔國府教育長〕

その辺は独自に工夫しながらやっていきます。理科専科を八木の小学校が行っていて質は上がっています。中学校の先生がその専門性を持って教えられたり、そういう形がとれるのは魅力的です。免許を複数持っているかという部分も関わってきます。小中学校の免許を持っている方は多い。

〔西村市長〕

学校教育に民間の資金を入れられないかとか議論をしています。難しいとは思いますが、良い知恵があればよろしくお願ひしたいです。教育の課題は、教育長から出た、質の問題と、人口減少社会での今後の小中学校の体制の問題です。八木と園部は当面は今のまま安定していくかと思っています。幼児教育のこととあわせて、先生の数と方法の数が大きな課題です。それを土俵にして教育委員会でも議論いただけたらと思います。委員から意見はありますか。

〔城戸教育委員〕

八木の図書室移転の件で、新聞の方では、3～4割縮小されての移転と理解していますが、縮小について、どのような影響があると市長は考えていらっしゃるのですか。

〔西村市長〕

まず支所に集約されたということで、一昨日見てきたが、配架スペースについては、極端に減少はしていません。むしろ前の2階にあった学習室の機能をギャラリーの方に持って行って、カバーをしていくと考えています。実際、前の図書室の2階に上がる階段は薄暗かったです。今度の図書室は本の日焼けが心配なくらい日当たりがいいです。身体に障がいのある方の多機能トイレが前はなかったが、和式から洋式になりました。一長一短ありますが、プラス面を活用いただき、積極的に評価していただきたいです。ギャラリーは、以前より気楽なスペースになるようになればいいと思います。

〔城戸教育委員〕

不安に思っいらっしゃる方がいます。同じフロアの中に、市役所に用事があって来られる方と図書室に行かれる方で、今までのようにゆったり読書を楽しめなくなるのではないかと感じておられる意見が耳に入ってきます。今まで児童公園が隣接していて、そこから子どもたちが図書室にトイレを借りに来ていました。図書館司書の人とのコミュニケーションの場としてありましたが、そういうのがなくなってしまうのではないですか。

〔西村市長〕

今までの児童公園と図書室とのスペースの関係は分からないが、子どもと本をつなぐ図書室の職員の役割は大切だと思いますが、トイレに出入りの際に積極的に子どもたちを図書室に誘導できる仕組みを担当課と一緒に考えたいです。1階の公民館の受付スペースとその横の小さい倉庫のスペースがあって、今度は支所が少し凝縮された感じになります。そういう意味では、全体としてコンパクトになりますが、機能的には前と同じ役割を保っているので、そのまま前の活発なご活用を継続していただきたいです。遠慮せず出入りしてほしいと思います。

〔城戸教育委員〕

今まで出来ていたのに、これができなくなったという声が地域住民から聞こえるときがありましたら、それらを取り入れていつていただいて、反映していただけるような将来設計がありますか。

[西村市長]

図書館という場所は、勉強する場所というものでしたが、今は気軽に本を借りて家で読むという、貸出機能を非常に重視していると思います。それに付随した機能については、前と変わらないものにしたいです。ギャラリースペースでの利用など、細かい利用規則については考えて、利用促進については、継続してPRをしていきたいです。社会教育の担当課長もいるので障壁は取り払うように努力していきたいです。時間かけて悪い点をなくしていきたいという覚悟です。

予定ではこれくらいでとどめたいです。司会を返します。

< 3 > その他

[西村市長]

レジュメの3その他について何かありますでしょうか。

それでは教育長の方から閉会のご挨拶をしていただきます。よろしくお願いします。

< 4 > 閉会

◇ 國府教育長あいさつ

開催したところ、定例の教育委員会と総合教育会議と集中力が続いてよかったです。担当職員にも御礼を言いたいです。

教育委員会制度も変わって、この場合は市長と教育委員が十分な意思の疎通を図る目的があります。それぞれに大きな課題が目まぐるしく時間の速さで言うとどんどん進んでいます。図書館の話もそうですが、変化があると不安になります。しかしながら待ったなしで行くことも多数あります。園部の再編イメージについては、実現するためにハードルはたくさんありますが、乗り越えていきたいです。八木、日吉も含めて、それぞれ今後の取組についてもやっていかなければなりません。一層民意を反映した教育行政推進が目的であるということで教育総合会議がございました。

昨年は幼稚園教育をどうするかということで、不安な部分がありました。今後の就学前教育はどうなるのかという意見を多数いただきました。就学前教育に目を向けてやっていくべき中で組織改正で教育委員会に就学前教育や福祉も含めた所管になりましたので、私自身も勉強する機会だと思っています。去年のそういうところから一歩踏み出して、意思の疎通を図れたり、諸課題も表に出てきている中で、ともにハードルを越えながら、そして受けた教育・保育がある南丹市を目指したいと思います。本日はありがとうございました。